

校内研修計画

甲州市立東雲小学校

1. 学校課題

本校の児童は、明るく素直であり、友達とも仲良く協力して活動したり、決められたことに真面目に取り組んだりすることができる。縦割り活動などでは、上級生が下級生の面倒をよくみており、そのことが毎年、次の学年に引き継がれている様子も見受けられる。また、あいさつの取り組みを続けているので、学校や地域で、自然にあいさつが交わす様子が見られるようになってきている。

学習については、しっかり取り組む児童が多く、ていねいに作業したり、誠実に活動したりして、学ぶ様子が見られる。「学び合い」で、お互いの考えを交流することで理解を深めたり、意欲を高めたりすることも、児童に受け入れられ、分かりやすく考えを伝えようとする姿も増えている。

しかし、指示された課題などには、集中して取り組むが、自ら考えて学習し、表現する姿勢は、まだ弱いと感じる。また、友だちの考えを聞くことはできるが、疑問を抱いて質問したり、内容について意見、感想を述べて評価し合ったりすることは、まだ少ない。また、昨年度のQ-U検査とNRT検査のクロス集計にも、授業の中で、二次支援、三次支援が必要とされる児童が、各クラスに数名いることも明らかになっている。そのような児童が、学習をより分かたり、できるようになったりすることを今年度も大切にしていきたい。そして、今まで本校の取り組みで培ってきた児童の学習意欲と表現する力を、毎日の授業の中に結び付け、本校児童の学習の定着をさらに図りたい。

2. 研究主題

「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」

～ 算数科における授業の構造化を意識した学習活動の工夫 ～

3. 主題設定の理由

本校では、一昨年度から算数科の授業の構造化に着目し、研究に取り組んできた。昨年度は、学習内容の定着を図るために、「見通しをもたせる」「学び合い」「振り返りをする」の授業の構造化のポイントを元に、さらに「スモールステップの導入」「授業での児童の理解度の把握」「ノート指導」を意識しながら、また、教材や児童の実態を考えながら、学習活動を行ってきた。研究を重ねるにつれ、日々の授業において、児童の理解を深めるために、工夫や取りませ方を考えたり、教職員同士で話し合ったりすることが多くなり、各学年のつながりを考えた研究になった。2学期末には、児童の学習意欲、学習の到達度については、全国的な基準を超え、年度末の学校生活アンケートでは、子どもたちの学習意欲に対する肯定的な回答が、90%以上となった。学習意欲、学習の定着を維持していく、もしくは向上させていくことに努め、研究主題にせまりたい。

そこで、今年度も今まで積み上げてきた実践を生かし、授業の構造化を意識した算数科の授業づくりを継続して進めていきたい。次期学習指導要領では、深い学びの鍵として「見方・考え方」の重要性が示されているが、構造化を意識した算数科の授業づくりが、児童に習得、活用、探究という学びの中で「見方・考え方」を育むことになるからである。無藤隆（元白梅学園大学）は、「見方・考え方」を、課題を探究していくための手段であり、それを支えているのが、「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の3つの資質・能力であると述べている。それらは児童が、関心を持った課題に対して、習得してきた知識や技能で解決できないかを考えたり、合理的・論理的に自分の考えをまとめたり、互いに考えを交わしながら類似点や相違点を認め合ったりすることであり、授業の構造化の考え方と同じである。

それを踏まえた上で、「学び合い」が、より深められるように学習活動を工夫し、授業実践するこ

とによって、上記の3つの資質・能力を高め、「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」をめざしていきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- 算数科における「授業の構造化」を意識した学習活動の工夫について（理論研究・実践・検証）
 - ①学級集団づくり ・ Q-Uの分析と結果を生かした取り組み
 - ②学び合いを深めるための手立て
 - ③思考を深めるためのノート指導と振り返り
- 言語活動を整えるための日常的な取り組みの共有（NIEの取り組みも含む。）
- 児童の実態把握（NRT検査, Q-U）とK13簡易法を用いたQ-Uでの学級づくり
- 授業案の作成・検討及び授業実践

(2) 研究の方法

- ①講師を招いての学習会 ②授業研究会（2回） ③一人一実践授業の提供

(3) 検証方法

- ①Q-Uや市販のテスト結果をもとにした数値面での評価
- ②授業実践での児童の様子、児童のノート等の記述

5. 年間校内研修計画

研究主任 山縣 重人

実施月日	研修内容（領域）		担当・学年	T・C要請
4	1 2	第1回 研究の方向性について	研究主任	
	2 6	第2回 研究の概要について 研究の組織の決定	研究主任	
5	1 7	第3回 今年度の研究について 指導案の形式について	研究主任	
	3 1	第4回 NRT検査結果分析による話し合い	各学年	
6	7	第5回 学習会	研究主任	○
	2 1	第6回 Q-U事例検討会 アタックシートの作成	研究主任	
	2 6	第7回 Q-U事例作成シートをもとにした対応策の報告（全体）	研究主任	
8	2 3	第8回 教育課程説明会の環流報告会 研究授業について	教科主任	
9	6	第9回 学力把握調査の分析結果について 指導案づくり	3・5年担任	
10	4	第10回 ブロック研究（授業づくり）	ブロック長	
	1 1	第11回 授業案検討（3年）	3年担任	
11	1	第12回 授業案検討（5年）	5年担任	
	8	第13回 研究授業・研究会（3年）	3年担任	○
	1 3	第14回 研究授業・研究会（5年）	5年担任	○
12	1 3	第15回 ブロック研究（K-13法での分析）	ブロック長	
1	1 5	第16回 ブロック研究のまとめ研究紀要作成に向けて	研究主任	
	3 1	第17回 研究の成果と課題について	研究主任	
2	2 1	第18回 来年度の研究の方向性について	研究主任	
	2 8	第19回 研究紀要原稿作成	各担当	
3	7	第20回 研究紀要作成	研究主任	

※研究テーマに沿って全員が授業実践を行い、参観、交流することにより、研究を深める。